

## 2.宗教と子ども食堂：偏見を持たれやすい宗教

川添由貴

はじめに

子ども食堂は、ここ数年で数を増やしてきた、無料または安価で栄養のある食事や居場所を提供するための活動である。主に任意団体やNPO法人などの運営で行われており、カフェや食堂、公民館、社会福祉会館、教会、お寺、自宅などの場所で開催されている。子ども食堂の開催目的は子どもの貧困や社会的孤立などを背景に、生活困窮者家庭の子どもへの食事支援・地域での居場所づくりや、多様な子どもたちの地域での居場所づくりなど様々である。実際、生活困窮者への食事提供を目的とした子ども食堂も存在するが、ほとんどの子ども食堂は参加者への居場所の提供や、地域と参加者のつながりを提供することを目的としたものが多い。

現代の日本は、インターネットの普及などにより隣近所の住民とかかわりを持たない無縁社会が進んでいる。その結果、子どもの虐待や高齢者の孤独死などのニュースが年々数が増し、隣近所とのつながりが失われてきたことが子どもの虐待や高齢者の孤独死の発見の遅れにつながっている。もし、隣近所とのつながりがあれば、隣の家の子どもの泣き声や親の怒鳴り声などに反応した隣近所の人が通報したり、毎朝挨拶を交わしていた隣近所の高齢者がある日突然顔を出さなくなったら、つながりを持っている隣近所の方は心配になる。このように、現代の日本は隣近所とのつながりを失ったため、多くの課題が増えてきたのである。したがって、現代の日本に必要なものは参加者への居場所の提供や、地域と参加者のつながりを提供することを目的としている子ども食堂なのである。隣近所の付き合いについて、近所づきあいが面倒だと感じてしまうようになり、近所の人と深くかかわりたくないなど、近所づきあいが難しいと考える人でも、子ども食堂は子どもだけの参加も可能など多いため、近所づきあいや親同士の付き合いが面倒と感じていても、子どもだけを参加させることで自分は付き合いが必要がないが、子どもはつながりが保てるといったメリットが子ども食堂にはある。このように、現代の日本に必要な子ども食堂は年々増え続けている。そこで、増え続けるにあたって、参加者にとって参加しやすい子ども食堂と、参加しにくい子ども食堂があるのではないかという疑問が生じた。例えば、カフェや食堂などで開催されている子ども食堂は、自分がカフェや食堂に行くような感覚で気軽に参加できる。しかし、お寺や教会など、宗教を信仰している方が主催者となっている子ども食堂は、自分の子どもをお寺や教会で開催されている子ども食堂に参加させると、自分や自分の子どもが宗教に勧誘されたりするのではないかと思い、そのような子ども食堂に参加することを懸念してしまい、気軽に参加しにくいといったケースがある。このように、お寺や教会で開催されている子ども食堂は開催場所から参加しづらいと思われやすいといったデメリットを持っているのである。

本稿では、ボランティアとして参加しているマンナ MANNA 子ども食堂（主催者はキリスト教信仰者）を主体として、様々な困難を抱えている人に寄り添うことは、仏教やキリスト教の理念と一致することに着目し、お寺や教会で開催されている子ども食堂はお寺や教会以外で開催されている子ども食堂に比べて参加しづらいということは本当であるのかということを明らかにすることを目的に調査を行う。調査方法としては、中京大学現代社会学部成ゼミ 3 年が愛知県の子どもの食堂の主催者・参加者を対象に行ったアンケート調査をも

とに、教会やお寺で開催されている子ども食堂について調査を行う。

### 第1章 お寺や教会で開催されている子ども食堂の比較

愛知県内には2018年度現在で、110か所を超える子ども食堂が存在している。そのなかでお寺や教会で開催されている子ども食堂はわずかではあるが、①マンナ MANNA 子ども食堂②平田寺子ども食堂③パークサイド子ども食堂④なかよしごはん⑤西福寺おかげさまプロジェクトの5つを比較していく。

	マンナ MANNA 子 ども食堂	平田寺子 ども食堂	パークサイ ド子ども食 堂	なかよしご はん	西福寺おか げさまプロ ジェクト
開催日時	毎月第4水曜 日	1月、8月を 除く毎月第 2日曜日 12:00～ 14:00	毎月第3水 曜日	毎月7日、 17日、27日	毎月第2金 曜日
開催場所	名古屋グレイ スクリスト教 会	平田寺	パークサイ ドチャペル	天理教春港 分教会内	西福寺
開催頻度	月1回	1年に10回	月1回	月3回	月1回
設立年月日	2017年12月 23日		2017年4月 1日		2017年10 月13日
運営形態	NPO法人	任意団体	個人	個人	宗教法人
子ども食堂 以外の活動	なし	子育て支 援、子ども 会	なし	なし	なし
夏休みの開 催頻度	通常と同じ	月1回程度	月1回程度	週1～2回程 度	月1回程度
参加費	子ども(0歳 ～15歳)無 料、大人300 円	子ども無 料、大人ド ネーション 性	子ども(0 歳～13歳) 無料、大人 300円	子ども100 円、大人 300円	子ども(0 歳～15歳) 無料、大人 300円
対象者	子ども、大人 誰でも	子ども以外 を含めて誰 でも	子ども以外 を含めて誰 でも	子どもなら 誰でも	子ども、大 人誰でも
参加者の平 均人数	子ども50 人、大人25 人	子ども20 人、大人20 人	子ども40 人、大人30 人	子ども27 人、大人18 人	子ども50 人、大人50 人
スタッフの 平均人数	25人	6人	10人	7～10人	25人

上の表から読み取れることとして、お寺や教会で開催されている子ども食堂は開催場所がお寺や教会だからと言って運営形態がすべて宗教法人と絡んでいるというわけではないということが分かった。また、愛知県内の子ども食堂のうち参加人数が最も少なかったものは子どもの参加人数 7~8 人、大人の参加人数は 0 人の合計 7~8 人の子ども食堂であり、最も多かったものは子どもの参加人数 92 人、大人の参加人数 26 人の合計 118 人の子ども食堂であった。したがって、お寺や教会で開催されているからと言って、子ども食堂の参加人数は少ないというわけではないことが分かった。

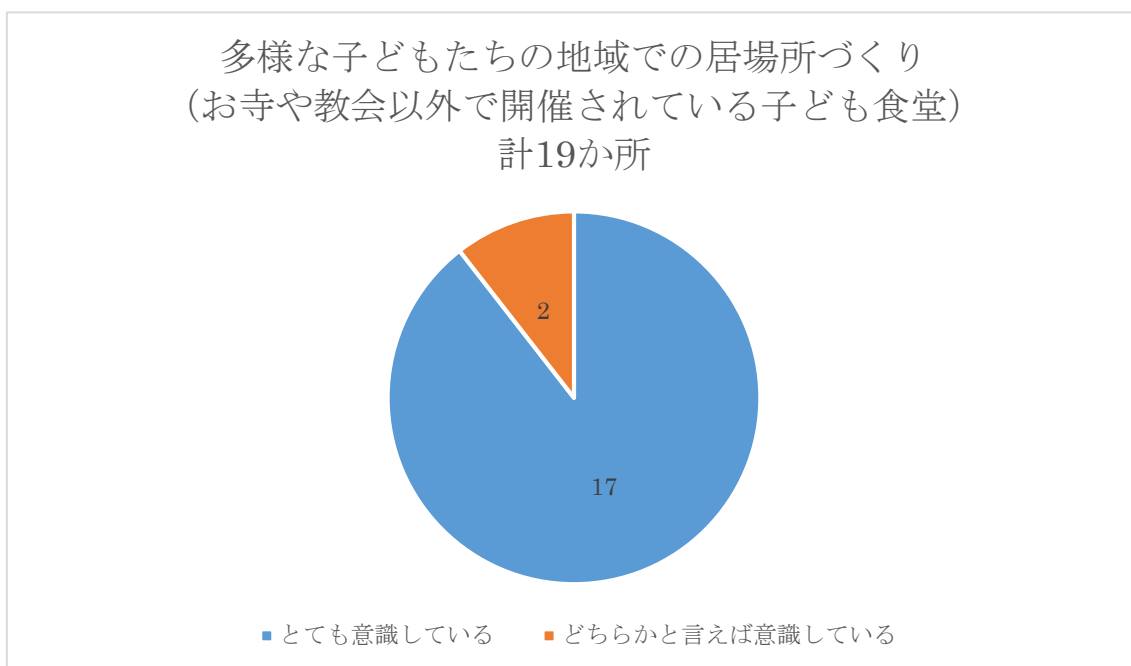
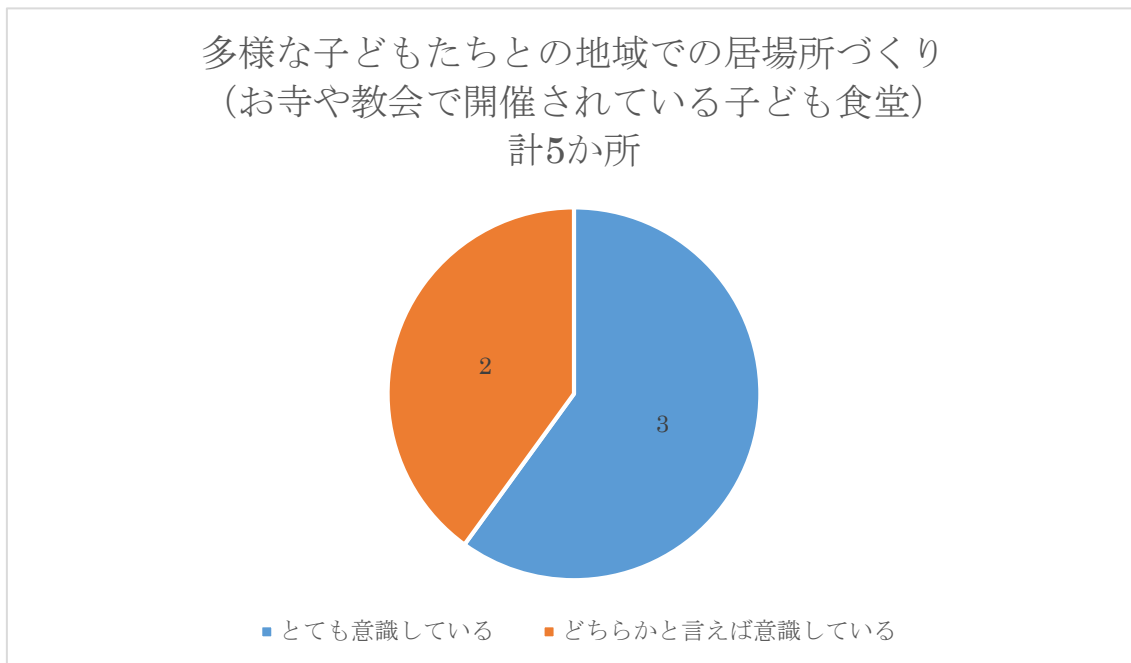
以上の 5 つの子ども食堂の他にも、名古屋市西区にある子ども食堂の山田っ子亭はお寺で行われている子ども食堂である。しかし、山田っ子亭の主体となっているものは自治会であり、自治会を主体とした子ども食堂は山田っ子亭が初めてである。山田っ子亭のように、開催者の主体はお寺や教会の方ではなく、自治会を主体としているが、開催場所はお寺や教会といったケースがある。したがって、お寺や教会で開催されている子ども食堂はすべて主催者が宗教を信仰しているというわけではなく、お寺や教会が子ども食堂の開催場所の提供場所となっているケースがあるのである。つまり、お寺や教会など、宗教を信仰している方が主催者となっている子ども食堂は、自分の子どもをお寺や教会で開催されている子ども食堂に参加させると自分や自分の子どもが宗教に勧誘されたりするのではないかと思ひ、そのような子ども食堂に参加することを懸念してしまい、気軽に参加しにくいといったケースがあるのは参加者の偏見であり、むしろ、子ども食堂の開催場所に困っているような主催者の方たちに開催場所を提供しているといった側面を持っているのである。実際、マンナ MANNA 子ども食堂へ約 2 年間、月 1 回のボランティアに参加しているが宗教に勧誘された経験は全くなく、また、そういった話を聞いたことも全くない。

もし、宗教を勧誘するような子ども食堂があれば、1 度参加したとしてもその子ども食堂のリピーターとなる確率は低くなり、そのような子ども食堂の参加人数は減少していくと予測される。つまり、子ども食堂と宗教の勧誘活動は全く関係のないものと言える。

## 第 2 章 お寺や教会で開催されている子ども食堂とそうでない子ども食堂の比較

愛知県内の子ども食堂計 24 か所の子ども食堂のうち、お寺や教会で開催されている子ども食堂とそうでない子ども食堂の 2 つの子ども食堂の①活動目的の比較と、お寺や教会で開催されている子ども食堂を代表としてマンナ MANNA 子ども食堂、お寺や教会以外で開催されている子ども食堂を代表して、参加者の平均人数が最も多かった子ども食堂のこの 2 つの子ども食堂の②子ども食堂の運営について協力している他機関・団体および個人についての比較を行う。

### ①子ども食堂の活動目的の比較



以上の2つのグラフから、どちらの子ども食堂もとても意識しているが最も、次いでどちらかと言えば意識しているという回答が多かった。共に、どちらかと言えば意識していない、まったく意識していないという回答は0か所であった。したがって、どちらも子ども食堂の開催目的は類似しているということが分かった。つまり、主催者が宗教を信仰している、していないに関係なく、子どもや高齢者、地域の人々の居場所をつくりたいという気持ちは同じなのである。

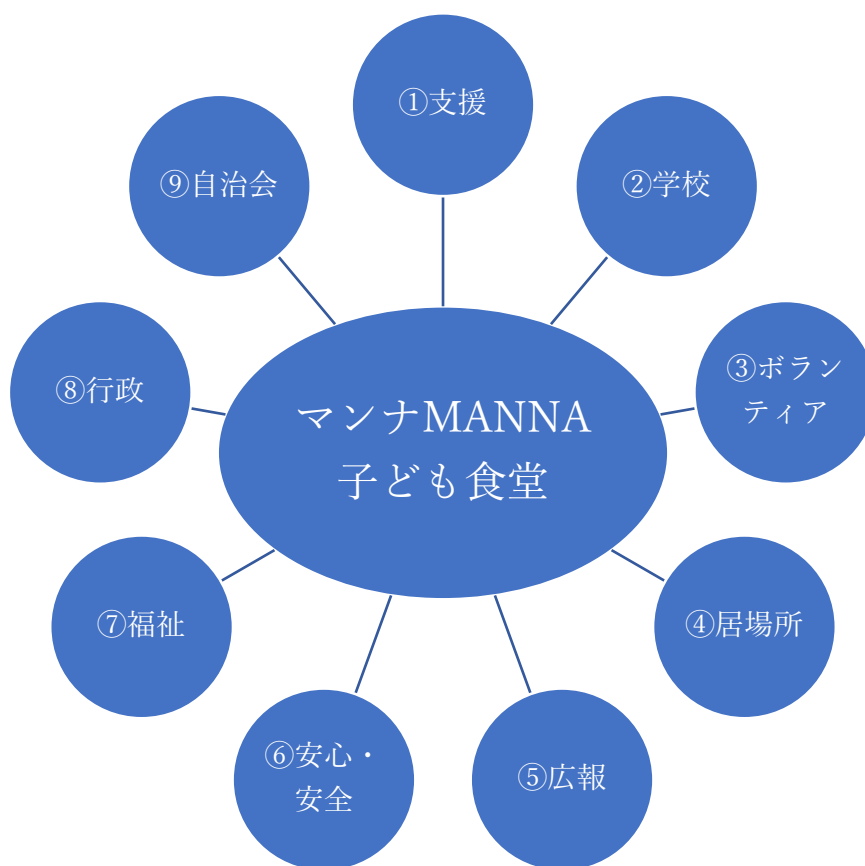
②子ども食堂の運営について協力している他機関・団体および個人についての比較

	マンナ MANNA 子ども食堂	参加人数が最も多かった子ども食堂
自治会	支援者・寄付募集への協力	連携していない
社会福祉協議会	食材・食材費の提供	相談
児童館	参加者募集への協力	参加者募集への協力
学童クラブ	参加者募集への協力	参加者募集への協力
公民館	連携していない	連携していない
保育所・幼稚園	参加者募集への協力	運営スタッフとして参加、参加募集への協力
小中学校・高校	参加者募集への協力	連携していない
PTA 等の学校関係団体	参加者募集への協力	連携していない
大学（大学が組織したボランティアを含む）	運営スタッフとして参加	運営スタッフとして参加
宗教法人（お寺・教会等）	食材・食材費の提供、会場の提供、支援者・寄付募集への協力	食材・食材費の提供
高齢者福祉施設	連携していない	連携していない
障害者福祉施設	連携していない	運営スタッフとして参加
農林・水産・畜産関係者（農協、漁協等団体）	連携していない	連携していない
農林・水産・畜産関係者（農家等個人）	連携していない	連携していない
フードバンク	食材・食材費の提供	連携していない
食品メーカー	食材・食材費の提供	食材・食材費の提供、運営スタッフとして参加
飲食店	連携していない	連携していない
商店・スーパー	連携していない	連携していない
民生委員		連携していない
NPO 団体（教育、子ども支援）	食材・食材費の提供、会場の提供、支援者・寄付募集への協力	連携していない
ボランティアセンター・市民活動センター	運営スタッフとして参加	連携していない
地域住民（自治会・町内会・商店会等団体）	運営スタッフとして参加	運営スタッフとして参加
地域住民（個人）	運営スタッフとして参加	運営スタッフとして参加

以上の表から、マンナ MANNA 子ども食堂の運営について協力している他機関・団体及

び個人の数は、連携しているが 15 か所、連携していないが 7 か所となった(無回答 1 か所)。一方、参加人数が最も多かった子ども食堂の運営について協力している他機関・団体及び個人の数は、連携しているが 9 か所、連携していないが 14 か所となった。したがって、マンナ MANNA 子ども食堂のほうがより多くの他機関などと連携しているということが分かった。より多くの機関と連携していることのメリットとしては、食材の提供などに困ったときなどに提供を受けられることなどから子ども食堂を継続しやすい、多くの機関と情報交換を行えるなどといったメリットがある。また、参加人数が最も多かった子ども食堂は小中学校・高校、PTA 等の学校関係団体と連携していないのに対し、マンナ MANNA 子ども食堂は小中学校・高校、PTA 等の学校関係団体と連携している。これは、参加者により子ども食堂の存在を知ってもらえることや、気軽に参加しやすくなるといったメリットもある。このように、お寺や教会以外で開催されているからとってお寺や教会以外で開催されている子ども食堂よりもいい面を持っていることもあるため、子ども食堂の開催場所から偏見を持つ必要は全くないのである。

#### NPO 法人 マンナ MANNA 子ども食堂の絆



上の連携しているマップは、NPO 法人マンナ MANNA 子ども食堂のつながりマップである。マンナ MANNA 子ども食堂は①支援…フードバンク名古屋、マルト水谷、名古屋バナナ加工、豆腐くすむら、寄付金、他②学校…名古屋市立山田小学校、名古屋市立中小田井小学校、名古屋市立山田中学校、名古屋市立山田高等学校、その他大野木小学校、比良小学校、

名北小学校、山田西小学校、トワイライトスクール③ボランティア…中京大生他学生、地域の主婦・大人、教会のメンバー、他④居場所名古屋グレイスクリスト教会⑤広報…新聞、テレビ、ラジオ、メディア媒体、Facebook、SNS⑥安心・安全…名古屋市保健所西保健センター、愛知県西警察署、損保保険会社⑦福祉…名古屋市社会福祉協議会、名古屋市西社会福祉協議会⑧行政…名古屋市子ども青少年局、名古屋市西区役所、西区役所山田支所、愛知県健康福祉部⑨自治会…名古屋市西区山田学区自治会、中小田井学区自治会とのつながりを持っている。このように、より多くのつながりがあるほど軸がしっかりとした子ども食堂となり、他機関や参加者からの信頼も得やすい子ども食堂となると考えられる。もしも、つながりが少ない子ども食堂であれば、軸がしっかりしておらず、子ども食堂を継続することが難しくなったり、他機関や参加者の信頼を得ることが難しくなるだろう。

愛知県内の24か所の子ども食堂の比較から、お寺や教会が開催場所となっている子ども食堂とそうでない子ども食堂は開催目的に差はなく、お寺や教会だからといって宗教団体が母体となって主催されているというわけでもなかった。また、より多くの機関と連携している子ども食堂のほうが、そうでない子ども食堂よりも軸がしっかりとしており、子ども食堂が継続されやすいといったことから、子ども食堂が無くなってしまいう心配もなく、継続して子ども食堂へ参加できることから、安定したつながりの場所となるともいえる。

### 第3章 宗教の社会貢献

子ども食堂は無料または安価で栄養のある食事や居場所を提供するための活動であるため、収益を得ることはなく基本的に非営利活動である。野菜やお米などを寄付してもらえたり、フードバンクから食べ物の提供をしてもらうことができるが、やはりコストはかかる。したがって、個人で子ども食堂を開催するよりも、お寺や教会などの宗教団体で子ども食堂を開催したほうがコスト面などで負担が少ない。しかし、子ども食堂には宗教の宣伝に使ってしまうという側面ももっている。教会やお寺で子ども食堂を開催すると新聞やテレビなどで取り上げられ、社会福祉活動によることから自分たちの宗教のイメージアップや自分たちの宗教の宣伝につながる。したがって、子ども食堂を開催するという名目で実際は自分たちの宗教を宣伝することが目的となっているかもしれないのである。これは、子ども食堂にとってあまり良いイメージではない。

宗教の社会貢献というコンテクストは、論争的である。企業や大学の社会貢献は、当然ながらイメージアップやブランド価値の創出といったビジネスのために企業や大学は社会貢献しており、そのような戦略を怪訝したり、問題視したりする風潮はあまりないが、宗教の社会貢献では、そのスタンスが大きく変わる。そこには、「ソーシャル・キャピタル（社会的資本）」としての宗教というものが存在する。社会の様々な組織や集団の基盤にある信頼、規範、人と人との互酬性が強く、しっかりしているところは、人々の支え合い行為が活発化し、社会の様々な問題を改善でき、組織、集団としてしっかりとしている。この組織や集団にある信頼、規範、人と人との互酬性が「ソーシャル・キャピタル」と言われるものである。つまり、企業や大学の社会貢献に比べ、宗教の社会貢献は浮き彫りにされやすいのである。宗教の社会貢献は特定教団の布教・教宣活動の一環という偏見がマスメディアに強く、阪神淡路大震災の宗教団体のボランティア活動の際にも、実際に、宗教団体の方がボランティア活動に来ていても特定教団の布教・教宣活動の一環というように見られたことがあった。

現在、世界の各国が「ソーシャル・キャピタル」に関心を示し、様々な社会政策を進めている。世界で「ソーシャル・キャピタル」が重要視されているのには過去の背景が存在する。第二次世界大戦後、日本をはじめ多くの国々は民主主義化を進め、豊かさを追求してきた。しかし、現代社会は、犯罪、貧困、環境問題、テロリズム等の多くの問題を抱えている。そして近年、貧富の格差が拡大してきている。交通手段や情報網の発達と雇用形態の多様化により移動性の高くなった社会では、都市化・核家族化が進行し、枠組みとしての共同体は崩壊の危機となっている。そういったなかで、過剰な利己主義への批判と支え合う、市民社会構築を求めることから、「ソーシャル・キャピタル」への注目が集まっているのである。

そのようななかで、宗教が「ソーシャル・キャピタル」の源泉とみなされる場合がある。つまり、宗教集団自体が、「ソーシャル・キャピタル」を醸成する媒体として社会に貢献しているという考え方である。人間関係の希薄化した、他人を信頼しにくいリスク社会で、人々は「ソーシャル・キャピタル」の乏しい関係性を生きている。しかし、信頼に基づく人間関係なしでは人間は生きにくい。「ソーシャル・キャピタル」の乏しい社会では、人々が求めている信頼に基づく人間関係を得ることが難しいのである。その点、宗教集団は、もともとその内部に信頼構造を備えているため、それ自体が社会に貢献していると考えられる。そして、宗教集団は、人と人とのつながりを作り出し、コミュニティの基盤になっているのである。

このように、宗教集団は、人と人とのつながりを作り出していることなどから、子ども食堂といった視点に置き換えてみたときに、子ども食堂として地域の人々の居場所となりやすく、人と人とのつながりを作り出しやすいのである。つまり、お寺や教会で開催されている子ども食堂は宗教の勧誘などで偏見を持たれがちであるが、そうではなく、むしろ、お寺や教会以外で開催されている子ども食堂よりもつながりをつくりやすいといった特徴があるのではないかと考えられえ。

他者のために行動したいと思う利他的な精神は、身近な他者から普遍的な他者へと意識が広がるにつれて、社会問題などへの意識を喚起させることがある。例えば、環境や福祉、国際紛争などの社会問題に対して利他的意識を持つ人がいるが、自分一人では何もできないと悩んだり、どうしたらよいかわからないと、行動に移せない人も少なくない。一般社会と同様、宗教団体においても、教団方針や説教で示されることなどには賛成できても、理念としてあまりにも大きなものであるため、個々人が主体として参加しているという意識が希薄になってしまう。そのような時、宗教団体の身近な奉仕活動は、個々の信仰者が主体とし実社会に関わりつつ、積極的な利他的行為・社会貢献を積んでいくための架け橋となる可能性がある。人間関係が希薄になった現代の日本の中で、人は目に見えるつながりや、実体感をともなった生活基盤を求めている。宗教団体における社会貢献活動、共同作業、人間関係は、自分探しをしている信者が、自己存在のリアリティや、他社や社会貢献しているという確信を得る機会を与えているのである。そして組織が活動体として動く時、理念が必要であるが、その理念が信仰や信念にもとづいている場合、より強い社会的力となる。宗教団体の社会貢献活動は、社会福祉の実質的な担い手としての機能に付け加えて、助け合い・支え合いの精神を育てる公共的な場を提供する機能をあわせ持つと言える。それこそが、宗教の社会貢献なのである。これを子ども食堂の活動に置き換えたとき、子ども食堂のような社会福祉活動を行うことによって、自分自身を見直すきっかけともなるのである。また、子ども食



堂を開催する時に、活動体として動くには理念がなくても動くことは可能ではあるが、理念が必要であり、その理念が信仰や信念にもとづいている場合、より強い社会的力となるため、よりよい子ども食堂を開催できると考えられる。

このように、「ソーシャル・キャピタル」という視点や、理念という視点から、宗教団体が子ども食堂を開催することは子ども食堂の参加者にとっては、より人と人とのつながりを作り出してくれる場であり、また、子ども食堂の主催者にとっては、自分自身の原点を振り返ることができる場なのである。

おわりに

愛知県内の子ども食堂のアンケート調査結果の比較を行い、お寺や教会以外で開催されている子ども食堂とお寺や教会以外で開催されている子ども食堂には子ども食堂の開催目的やつながりなどの面でそれほど差はなく、お寺や教会で開催されている子ども食堂が開催場所から不利になってしまう背景には、子ども食堂の参加者の偏見や、宗教の社会貢献は特定教団の布教・教宣活動の一環という偏見がマスメディアに強いことなどが挙げられる。お寺や教会で開催されている子ども食堂が必ずしも宗教の信仰者であるわけではないし、また、お寺や教会で開催されている子ども食堂の主催者が宗教の信仰者であった場合でも、その子ども食堂の母体が必ずしも宗教団体とは限らない。つまり、子ども食堂を開催している方たちは、みなそれぞれの思いがあり、その思いは宗教に関係なく起こるものであると言える。また、もしも宗教理念から子ども食堂を開催していたとしても、その理念が信仰や信念にもとづいていると、より強い社会的力となるため、より良い子ども食堂を開催できるのである。したがって、子ども食堂を宗教理念から開催されているなどと、子ども食堂に対しよくないイメージを持っている人は、それは子ども食堂に対する偏見であり、むしろ、宗教理念から作り上げられている子ども食堂のほうが軸がしっかりしているため崩れにくく、安定した居場所となるのである。また、お寺や教会で開催されている子ども食堂へ参加すれば、宗教に勧誘されるのではないかといったイメージも、参加者の偏見であり、もし、宗教に勧誘するような活動も行っている子ども食堂があれば、その子ども食堂のリピーターは減少するため、子ども食堂として成り立っていくことが難しくなるのである。

このように、子ども食堂の参加者の偏見により、お寺や教会で開催されている子ども食堂はお寺や教会以外で開催されている子ども食堂よりも不利になってしまう場合がある。たしかに、お寺や教会で子ども食堂を開催すれば、この宗教はこんなにもいい社会福祉活動を行っているなどと、宗教の宣伝効果となっているかもしれない。しかし、お寺や教会で開催されている子ども食堂があるというニュースがテレビや新聞で報道されれば、その報道を見かけたお寺や教会の人が、私にもできるかもしれないと子ども食堂の開催のきっかけとなり、子ども食堂の数が増え、地域の人々のつながりの場が増えてくれる。これは、地域の市民としてもメリットであり、もしも、宗教の宣伝効果も狙って子ども食堂を開催したとしても、子ども食堂の数が増えてくれるのであればよいのではないかと考えられる。

子ども食堂は、誰でも開催することができ、一見簡単そうに見えるが、開催することは簡単でも、継続することは難しい。開催したいと思っている人がいても個人でやるにはコストの面で開催を断念してしまったり、なにより、開催場所がないのである。子ども食堂は地域の人々のつながりの場を提供するだけでなく、食事も提供する場合は非常に多いため、キッ

チンなどの設備が整っていないといけない。その設備がお寺や教会には整っているケースが多いため、開催場所としては適している。また、子ども食堂を開催できたとしても、参加者がどんどん増えていってしまうと、ボランティアスタッフの数が足りなくなってしまう。そういったときに、お寺や教会はお寺や教会を利用している人がボランティアスタッフとして参加してくれる場合が多いため、ボランティアスタッフの数が足りないと悩むことがあまりないのである。ボランティアスタッフが減らずに保てることは、ボランティアスタッフにも負担がかかりにくく、ボランティアスタッフとして継続してもらいやすい。カフェや食堂で開催されている子ども食堂は、参加者にとっては気軽に行きやすいが、そのため、参加者が増えてしまうとボランティアスタッフが足りなくなった時に、ボランティアスタッフを集めることがお寺や教会よりも難しいと考えられる。このように、ボランティアスタッフの面からみても、お寺や教会で開催されている子ども食堂は開催場所として適していると言える。

宗教団体が、人と人とのつながりを作り出していることや、様々な困難を抱えている人に寄り添うことは、仏教やキリスト教の理念と一致し、その理念から子ども食堂を開催すれば、よりつながりの深い子ども食堂を作り出せる。また、子ども食堂は、子ども食堂のような社会福祉活動を通して宗教者が自らの原点を見つめる機会にもなっている。このように、お寺や教会で開催されている子どもは一見偏見を持たれがちだが、実は、子ども食堂の参加者にとっても主催者にとっても、双方にとってプラスのことなのである。

#### 参考文献

- 稲場圭信、櫻井義秀（2009）『社会貢献する宗教』世界思想社  
稲場圭信（2011）『利他主義と宗教』弘文堂